

## 子牛を死なせない

根室西部事業センター 第2家畜診療課 獣医師 渡辺 守

今、子牛が高い！！市場では、数年前には考えられなかったような高値が続いています。儲かるために必要なこと、それはずばり、「子牛を死なせない」こと。

そこで今回は、お産で子牛を死なせないためのヒントをいくつかご紹介します。

### 1. それは本当に難産？

牛のお産は、『待つ』これが基本です。多くのお産は、牛が自分の力でやり遂げられます。介助する場合は、絶対に無理に引っ張らない。母牛の陣痛を無視した無理な牽引は、母牛と子牛をつなぐへその緒を圧迫して死産のリスクを高めるだけではなく、母牛の分娩後の疾病（産褥熱、第四胃変位など）の発生率を上げてしまうというデータもあります。

#### 介助を検討するタイミング

- 一次破水後、2時間たっても二次破水しない。
- 二次破水後、破水後陣痛が強くならず、2時間たっても子牛が生まれない。
- 母牛の陰部から、子牛の飛節が出きった（逆子の場合）。
- 子牛の舌や蹄の間をつねって反応がない、または弱い。

牛の陰部と自分の手をよく洗い、直腸検査用手袋を着けて、産道に手を入れてみましょう。

産道の開き具合、子牛の状態（体勢、衰弱具合）を確認します。

少しでもおかしいと感じることがあれば、牽引する前に獣医師にご相談を。

### 2. 子牛の蘇生～心拍が触れる限りあきらめるな！～

仮死状態で生まれた子牛の対応においては、獣医師を待っている暇はありません。すぐに心拍を確認し、蘇生にとりかかりましょう。

#### 【心拍の確認】

左半身を上に乗かせ、前足の付け根に手を当てる

#### 【呼吸の誘発】

後頭部に冷水をかける、鼻の中を指やワラで刺激する

#### 【人工呼吸】

上記で呼吸が始まらないときは人工呼吸を

#### ①胸部開閉法

子牛を横に寝かせ、その上に馬乗りになり前足をつかみます。つかんだ前足を横に大きく開き、戻します。この「開いて戻す」動作を1分間に40～60回。前足を開く際には、子牛の体が持ち上がるくらい大きくした方がより空気が肺に入り効果的です（図1）。



図1 胸部開閉法

## ②マウス to ノーズ法

子牛の口と片方の鼻の穴を手でふさぎ、空いた片方の鼻の穴に、人が口をつけ直接息を吹き込みます。この方法は有効ですが、衛生的に問題があり、感染症などのリスクがあります。

### 『仔牛用人工呼吸器キット』

衛生的に子牛の羊水を吸引し、肺に空気を送ることができる便利グッズ。ただし、マスク部分を子牛の鼻と口に密着させながらポンプ操作を行う必要があるため、複数人での作業が必要です。また、キットはやや高価（20,000～30,000円程度）。しかし、これで助かる子牛が増えるのなら、決して高い買い物ではないかもしれません。



### 子牛の逆さ吊りは逆効果？！

羊水を吐かせる方法として昔から行われているようですが、この方法では、胃の中の羊水は出ても、肝心の肺の中の羊水はほとんど出ません。また、逆さにすることで、肺が内臓に圧迫され、ますます子牛の呼吸が妨げられてしまうようです。

逆さ吊りではなく、台の上で子牛を伏臥位（“伏せ”の状態）にし、頭だけを台からずらして下を向かせるという方法（図2）でなら、肺を圧迫することなく羊水を出させることができます。



図2 羊水を吐かせる姿勢

処置後は伏臥位にし、呼吸しやすくしてあげましょう（図3）。



図3 伏臥の姿勢

子牛を伏臥位までした後に、酸素吸入器（人間用）の使用も有効な可能性があります。これにより、素早い呼吸の安定を促してくれるかもしれません。価格もドラッグストアで1,000円未満ですのでそれほど大きな負担にはならないのではないのでしょうか。



## 3. 初乳は大切、でも焦り過ぎない

子牛の順調な発育に欠かせないのが初乳。初乳の給与は早いに越したことはありません。

しかし、その前に！子牛が濡れて冷えていませんか？呼吸は安定していますか？

出生直後、子牛の第四胃内にはまだ数ℓの羊水が存在します。出生後、低体温・低酸素状態が解除され、羊水が腸管へ送り出されることで、初めて子牛は初乳を飲みたがります。胃の中に羊水がある状態で初乳を無理やり飲ませると、胃で初乳が薄められ吸収率が下がってしまいます。

まずは、子牛の呼吸を安定させ、温めてあげましょう。その上で、生後6時間以内に、体重の10%程度の量（40kgなら4ℓ）の初乳を子牛が哺乳欲を示したタイミングで与えるのが理想です。